

極楽浄土と天国

このところ、葬儀の折にお孫さんたちが、亡くなられたお爺ちゃん・お婆ちゃんへ手紙を読まれる事によく出会います。とても微笑ましいエピソードもあり、聴いていてもお孫さんたちの気持ちがよく表れていて、いいものだなあと思います。

ただ一つ気になる事は、その中に「天国にいる」という言葉がよく(必ず?)出てくる事です。もちろん子供さんたちに問題があるのではなく、私たち僧侶の側、また仏教もキリスト教もゴッチャにしている大人の側に問題があるのは明白なのですが、もう一度浄土という世界を整理してみたいと思います。

親鸞聖人は、自分を省みる事のない身勝手な思いを打ち破る真理の働きとして浄土を示されました。つまり、お念仏の教えを聴いていく中で得られてくる真理の『働き』であると言う事です。決して亡くなってから行く場所ではないのです。

私たちは、ともすると自分の力で今の自分の生活を築いたと思ってしまうがちです。しかし、実際には沢山の人によって支えられて今の生活があるのです。自分の力で生きてきた、と思いがっていた私が、じつは沢山のお陰によって支えられていた。すべてが私の計らいではなかったのだと気づかされていく。それが「真理の働き」であり、親鸞聖人が私たちに示して下さった「浄土」という世界なのです。